sangetsu



第70回 定時株主総会

@Copyright Sangetsu Corporation

安田:本日は、ご多用中のところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。 私は社長の安田正介でございます。

定款第 15 条の定めに従いまして、本総会の議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申しあげます。

新型コロナウイルス感染症は依然、終息しておりませんが、本総会におきましても、株主の皆さまの安全を第一に考え、玄関や会場で皆さまをご案内する社員につきましては、6月20日に PCR 検査を実施し、昨日全員が、陰性反応であることを確認しております。

また、登壇者は皆さまと十分距離をとった上で、マスクを着用させていただいておりますので、 ご了承ください。私の前には飛沫防止パネルを設置しておりますので、マスクを外して議事を 進行させていただきます。

また、短時間で終了できますように簡潔な運営を心掛けたいと存じますので、ご協力の程、よろしくお願い申しあげます。

それでは、ただ今から株式会社サンゲツ第70回定時株主総会を開会いたします。

監査報告 (招集ご通知 p.49~54)

Sangetsu @Copyright Sangebus Corporation

それでは、報告事項および議案の審議に先立ちまして、監査等委員会の委員長、羽鳥正稔より監査等委員会の監査報告をご報告申しあげます。

羽鳥:監査等委員会の委員長を務めております羽鳥でございます。それでは、監査の結果についてご報告申しあげます。

監査の結果は、お手元の招集ご通知 49 ページから 52 ページの会計監査人の監査報告、および、53 ページから 54 ページの監査等委員会の監査報告、および WEB サイトに記載の通りでございます。

感染症対策の一環として、株主総会も、できる限り短時間でということでありますので、これを もって本日のご報告とさせていただきます。 以上、ご報告申しあげます。

目的事項

報告事項

- 1.第70期(2021年4月1日から2022年3月31日まで) 事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び 監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
- 2.第70期(2021年4月1日から2022年3月31日まで) 計算書類の内容報告の件

決議事項

第1号議案 剰余金の処分の件

第2号議案 取締役(監査等委員であるものを除く。) 2名選任の件

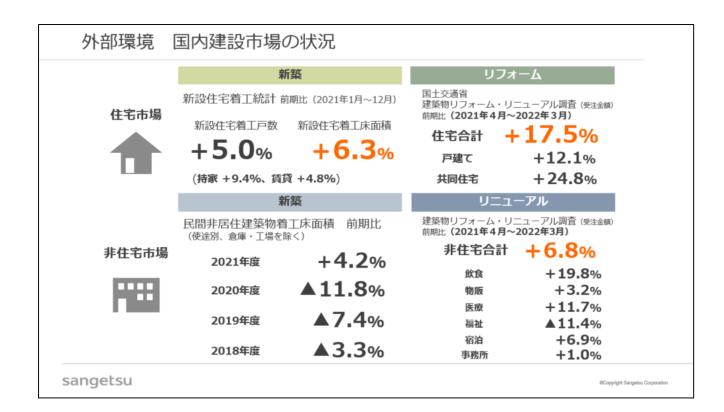
Sangetsu @Copyright Sangebus Corporation

安田:それでは、次に本総会の報告事項につきご説明をさせていただきます。報告事項1第70期事業報告の内容、および連結計算書類の内容につきましては、お手もとの「招集ご通知」15ページから46ページ、報告事項2第70期の計算書類の内容につきましてはお手許の「招集ご通知」47ページから48ページに記載の通りでございます。

これらの記載の報告事項に加え、私から2022年3月期の決算概況ならびに、中期経営計画の進捗状況のご報告の中で、ご説明をさせていただきます。



まず、最初に2021年度の決算概況をご説明申しあげます。



最初に、昨年度の建設市場の状況についてご説明いたします。

2020 年度の大きな落ち込みから、21年度最も大きく回復いたしましたのは、住宅リフォームで前期比 17.5%増、非住宅のリニューアルが 6.8%増となっております。

新築住宅の新設住宅着工床面積は 6.3%増でありましたが、新築の非住宅市場は、21 年度着工は回復いたしましたが、2018・19・20 年度での新築着工の落ち込みが影響し、内装工事に関しては、厳しい状況が継続いたしました。

連結決算の概要 損益計算書

	2021年3月期			2022年3月期		(億円、%)
	実績 収益認識基準 週用:無(A)	実績 収益認識基準 週用:無(C)	前期比 (C-A,C/A)	11月修正予想 収益抵加基准 選用:無(B)	11月修正 予想比 (C-B,C/B)	実績 収益認識基準 適用:有
売上高	1,453.1	1,588.2	+135.1 (+9.3%)	1,560.0	+28.2 (+1.8%)	1,494.8
売上総利益	476.4	531.3	+54.9 (+11.5%)	533.0	▲1.6 (▲0.3%)	399.6
(利益率)	(32.8%)	(33.5%)		-		(26.7%)
販売費及び 一般管理費	409.3	451.8	+42.4 (+10.4%)	457.0	▲5.1 (▲1.1%)	320.0
営業利益	67.0	79.4	+12.4 (+18.6%)	76.0	+3,4 (+4.6%)	79.5
(利益率)	(4.6%)	(5.0%)		-		(5.3%)
経常利益	70.4	81.9	+11.4 (+16.3%)	78.5	+3,4 (+4.4%)	82.0
(利益率)	(4.8%)	(5.2%)		-		(5.5%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	47.8	2.6	▲45.1 (▲94.4%)	45.0	▲42.3 (▲94.1%)	2.7

このような市場環境のもと、2021年度の決算をご説明したいと思います。

表の右端をご覧ください。これは新たに収益認識に関する会計基準による、連結決算の数字でございますが、売上高は 1,494 億 8,000 万円、売上総利益 399 億 6,000 万円、販管費 320 億円、営業利益は 79 億 5,000 万円、経常利益 82 億円、そして、大幅な減損を行った結果として、2 億 7,000 万円の連結純利益となりました。

	2021年3月期			2022年3月期		(億円、%)
	実績 収益認識基準 週用:無(A)	実績 収益認識基準 週用:無(C)	前期比 (C-A,C/A)	11月修正予想 収益認識基準 進用:無(B)	11月修正 予想比 (C-B,C/B)	実績 収益認識基準 適用:有
売上高	1,453.1	1,588.2	+135.1 (+9.3%)	1,560.0	+28.2 (+1.8%)	1,494.8
売上総利益	476.4	531.3	+54.9 (+11.5%)	533.0	▲1.6 (▲0.3%)	399.6
(利益率)	(32.8%)	(33.5%)		-		(26.7%)
販売費及び 一般管理費	409.3	451.8	+42.4 (+10.4%)	457.0	▲5.1 (▲1.1%)	320.0
営業利益	67.0	79.4	+12.4 (+18.6%)	76.0	+3.4 (+4.6%)	79.5
(利益率)	(4.6%)	(5.0%)		-		(5.3%)
経常利益	70.4	81.9	+11.4 (+16.3%)	78.5	+3.4 (+4.4%)	82.0
(利益率)	(4.8%)	(5.2%)		-		(5.5%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	47.8	2.6	▲45.1 (▲94.4%)	45.0	▲42.3 (▲94.1%)	2.7

昨年度の決算を過去の結果と比較してご説明するために、これ以降のご説明は、収益認識 に関する会計基準を適用しないベースでご説明させていただきます

決算のPOINT

- 売上高 1,588.2億円 前期比:+135.1億円(+9.3%)
- 営業利益 79.4億円 前期比:+12.4億円(+18.6%)

売上高は、前期比9.3%増、営業利益18.6%増。 原材料価格上昇の中、営業利益は下期に大幅に伸長。 基礎収益力は確実に向上。

■親会社株主に帰属する

当期純利益 2.6億円 前期比: ▲45.1億円(▲94.4%)

米国Koroseal関連の商標権で多額の減損(55.9億円)実施。 これにより連結純利益は、2.6億円と前期比大幅減。

sangetsu

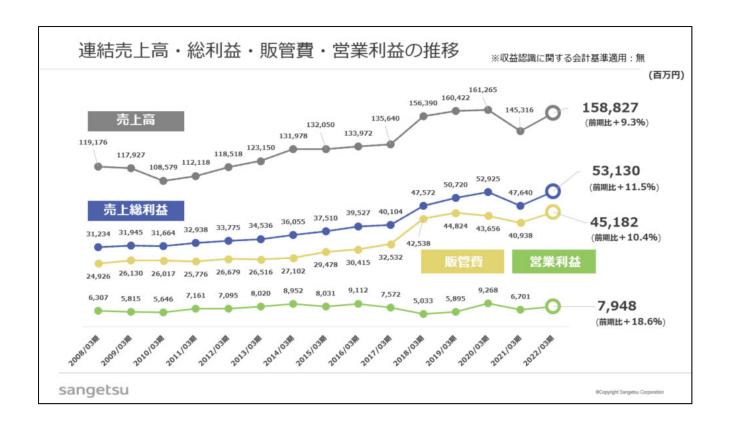
@Copyright Sangetsu Corporation

2021 年度決算のポイントとしては、主に 2 点あると考えております。

第一点目は、売上高は 1,588 億2千万円と前期比 9.3%増となり、営業利益は 79 億 4 千万円と前期比 18.6%増となりました。

営業利益は原材料価格上昇の中、下期に大幅に伸長しており、基礎収益力は確実に向上していると捉えております。

第二点目は、米国 Koroseal 関連の商標権で55億9千万円の多額の減損を実施したことにより、連結純利益は2億6千万円と前期比大幅に減少したことであります。 この2点について、ご説明申し上げます。



第 1 点目でありますが、2007 年度以来の数字の変化をご覧いただきたいと思います。売上高は、収益認識基準適用無しで見た場合、過去最高となった 2019 年度に次ぐ水準となっております。

総利益は、531 億 3,000 万円となり、過去最高となりました。

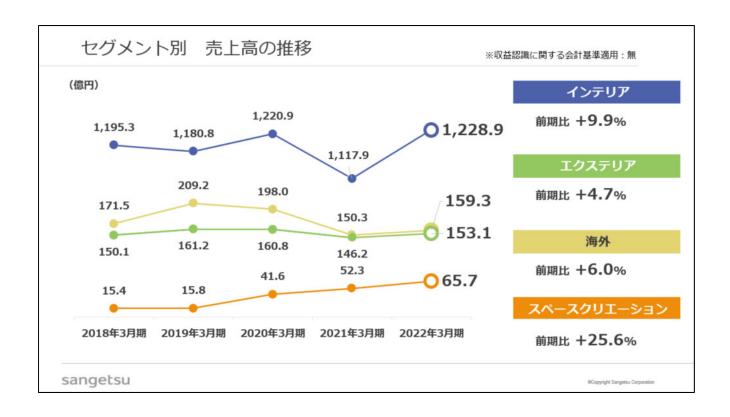
一方で、新しくオープンしました関西ロジスティクスセンター関連費用、また、多数の見本帳発刊による費用増等が重なりまして、販管費も 451 億 8,200 万円と大幅に増加いたしました。この結果、営業利益は 79 億 4,800 万円と前期比 18.6%増の結果となっております。この数字自体は、このグラフを見ていただきましても、過去の営業利益に比べて非常に高いという数字ではありません。



しかしながら、昨年度の四半期別の営業利益をこの画面の左側のグラフでお示ししておりますが、四半期を追うにしたがって、営業利益が拡大していることがご覧いただけます。

特に、第4四半期には、値上げと数量の拡大、販管費の抑制効果により、営業利益は30億 58百万円となっております。

第4四半期は、例年最も多忙となる時期ではありますが、過去からの第4四半期の実績をこの右のグラフでご覧いただきますと、昨年度の第四半期は、過去最高の営業利益となっており、これは、一時的なものではなく、基礎収益力の拡大によるものと考えております。



セグメント別の売上高を見ますと、国内市場に立脚するインテリアセグメントは、下期の値上げ 浸透が奏功し、1,228 億 9,000 万円 9.9%増となり、国内建設市場の回復以上に伸長したと考 えております。

エクステリアセグメントの売上高は 153 億 1,000 万円 4.7%増、海外セグメントの売上高は 159 億 3,000 万円 6.0%増、スペースクリエーションセグメントは施工を主業務とするフェアトーンが 伸長いたしまして、65 億 7,000 万円 25.6%の増となっております。

海外セグメント 減損について

Koroseal社に関連する商標権の減損実施

減損背景

■ 2021年度実績

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による急激な市場縮小
- ・原材料価格の高騰、人件費の上昇に加え、人員確保難・不足による生産効率悪化
- ・コスト上昇の販売価格転嫁(値上げ浸透)の遅れ

■今後の市場予測

・市場回復の長期化

等を考慮し、業績回復には一定の時間を要するとの見通しのもと 事業計画を見直し、減損実施。

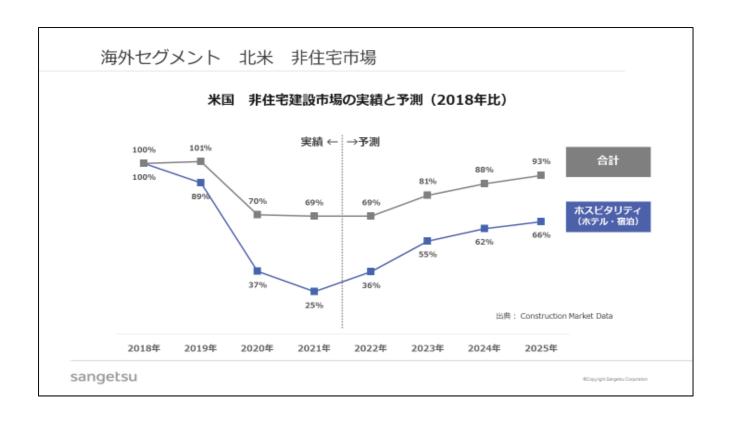
sangetsu

BCopyright Sangetsu Corporation

続きまして、海外セグメントにおける、北米の子会社 Koroseal 関連での 55 億 9,000 万円の減損処理についてご説明をいたします。

減損の背景といたしましては、1 つ目に、コロナ禍により米国内の非住宅建設市場が急激に減少したこと。2つ目に原材料価格や人件費の高騰に加え、人員の確保難により、生産効率が悪化したこと。そして、3点目として、これらのコスト上昇に対応する値上げの浸透が遅れたことがあります。

このような昨年度の状況に加え、コロナにより急激に縮小した市場の回復には時間を要するという見通しのもとで、事業計画を見直し、今回減損を実施いたしました。



この画面で、米国の非住宅市場の実績と予測をお示しをしております。

グレーの線が非住宅市場全体の動きでありますが、2021 年は 2018 年比 31%ダウンの 69% と大幅に縮小しております。本年も、ほぼ横ばいで推移し、来年 2023 年以降に徐々に回復するという予想となっております。

また、Koroseal の主要市場であります、ホテル宿泊等の市場では、さらに落ち込みが大きく、 回復には時間がかかると予想しております。

これらの市場予測をベースに事業計画を見直し、今回、多額の減損を行うことといたしました



続きまして、中期経営計画の進捗状況に関して、ご説明を申しあげます。

中期経営計画(2020-2022)【D.C. 2022】基本方針

- 1 基幹事業の質的成長による収益の拡大
- 2 基幹事業のリソースに基づく次世代事業の収益化
- 3 経営・事業基盤の強化
- 4 社会的価値の実現

sangetsu

@Copyright Sangetsu Corporation

2020 年度から 2022 年度までをカバーする現在の中期経営計画【D.C. 2022】は、4 つの基本方針によって成立っております。

- ・第一は、基幹事業の収益の拡大
- ・第二は、次世代事業の収益化
- ・第三が、経営・事業基盤の強化
- ・第四が社会的価値の実現

であります。

本日はこの内の第一、第二、第四についてご報告を申しあげます。

基幹事業の質的成長

Ш

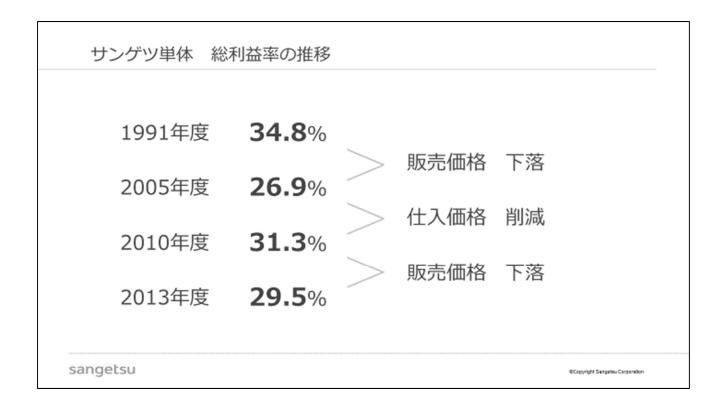
サンゲツ単体事業の収益力向上

過去、日本市場の緩やかな減退の中で、 競争激化、収益力の低下

sangetsu 6Copyright Sangebus Corporation

まず最初に、基幹事業の収益拡大ですが、このためには、やはりサンゲツ単体の収益力向上が中心となります。

サンゲツ単体の過去からの総利益率の推移を見ますと、日本市場の緩やかな減退の中で競争が激化し、総利益率が低下してきたことが理解できます。



日本経済が拡大を続けた 1991 年度には過去最高の総利益率 34.8%をつけますが、その後、徐々に低下いたしまして、2005 年度には 26.9%となります。

そこから仕入価格の削減等によりまして 2010 年度に 31.3%へと回復したものの、その後再度 下落基調となり、2013 年度は 29.5%となりました。

サンゲツ単体の収益力の向上



非価格競争力 価格以外での価値向上



機能・サービスの向上・拡大



数量・シェアの緩やかな拡大と価格改定

Sangetsu @Copyright Sangebus Corporation

このような過去の経緯を踏まえますと、収益の拡大のためには、価格改定、すなわち値上げを する必要がありますが、そのためには、価格競争に巻き込まれぬよう、価格以外の価値を向 上することが重要になります。

事業の機能・サービスを向上・拡大し、これによって、数量・シェアの緩やかな拡大と共に、価格改定を行うことが重要であるとの方針のもと、過去8年、取組みを続けてきました。

サンゲツ単体 総利益率

2013年度 29.5%

2021年度 35.1%



さらに向上

sangetsu @Copyright Sangetsu Corporatio

その結果を先に申しあげますと、ここ数年、これらの機能・サービスを着実に向上したこと、そして、それにもとづいて価格改定を実施したことによりまして、収益は改善をしてきております。 2013 年度に 29.5%であったサンゲツ単体の総利益率は、2021 年度には 35.1%へと向上しており、私共としてはさらにこの収益力を高めるべく、努力をしてまいります。

機能・サービスの 向上・拡大

- ・配送力(物流2024年問題)
- 施工力(内装施工技能者の高齢化・不足)
- ・空間デザインカ(高い顧客ニーズ)





sangetsu «Copyright Sangethuc Corporation

向上すべき、機能・サービスにはさまざまな施策が含まれておりますが、本日は商品配送にかかる機能、壁紙・床材等の内装施工に関する機能、そして空間デザインカの3点に関してご説明を申しあげます。

【配送力】 物流2024年問題への対応

働き方改革関連法によって、2024年4月1日から 「自動車運転業務における時間外労働時間の上限規制」が適用



ドライバー拘束時間短縮、リードタイムの延長、締め時間の前倒し等物流業界の"効率化" ≒ 標準化 が加速。



顧客の短時間での確実な配送への強い要請



自前・効率的物流体制の構築

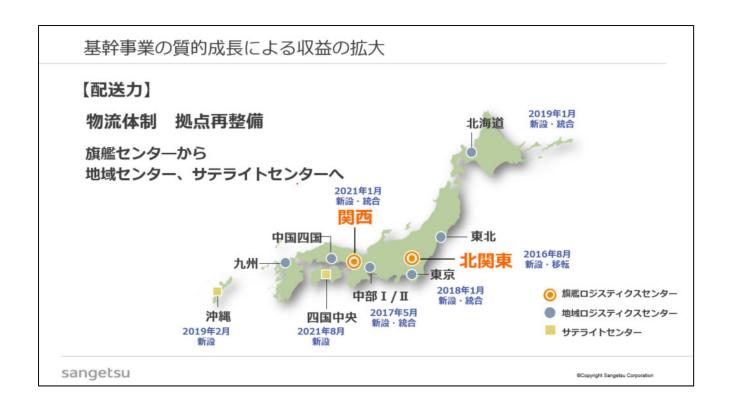
sangetsu

@Copyright Sangetsu Corporation

機能・サービスの内、配送力についてご説明を申しあげますが、物流業界は働き方改革関連 法に関連して、2024 年 4 月 1 日より時間外労働時間の上限規制が適用となります。これによ りまして、ドライバーの拘束時間の短縮が必要となり、物流業界の効率化、標準化が加速する と考えられております。

一方、市場では、代理店・施工事業者の従業員・社員の皆さんの勤務時間の短縮・効率化の ために商品の短時間での確実な配送に対するニーズ・要請が高まっております。

この2つの背反する要請を達成するために、過去3回の中期経営計画の中で、自前での効率的な物流体制の構築を進めてまいりました。



これが、過去から行って来た物流拠点の再整備でありますが、東西に旗艦センターを設けると共に、各地域センターの新設・統合・移転を行い、現在は、よりきめ細やかな配送の為のサテライトセンターの整備に努めております。



このような拠点整備により、長距離・長時間輸送を回避しつつ、全国すべてにて、翌日着を実現をしております。

【施工力】

- ・グループ企業 フェアトーン、壁装
- ・出資、提携企業
- ・主要取引先
- 営業本部施工支援能力

内装施工技能工約1,250 名建築施工管理技士約90 名

sangetsu @Copyright Sangethus Corporation

次の課題の施工力でありますが、施工技能工の高齢化、若手技能工のなり手不足により、施工力の不足感は益々強まっております。

そのような中で、多くの内装施工技能工を確保するために、グループ企業の施工力強化から、個別の営業組織での技能工との人的関係の強化等、さまざまな形態での施工力強化に努めております。

現在、内装施工技能工 約 1,250 名、建築施工管理技士 約 90 名の体制となっており、今後 さらに強化を進めてまいります。

【空間デザインカ】

自社事業の付加価値向上のため 顧客(ハウスメーカー、ビルダー、事業主、ゼネコン等) には強い空間デザインニーズ



空間デザイン提案の有効性

sangetsu @Copyright Sangebus Corporation

次に、3点目の空間デザインカの強化に関してご説明を申しあげます。

空間デザインカとは、住宅・非住宅ともに、壁紙・床材・カーテンのみならず、照明・家具等を含めた空間デザイン提案を行う力を総称して空間デザイン力と称しております。

ハウスメーカー、ビルダー等の住宅関連の顧客、また、さまざまな事業主、その仕事を請ける ゼネコン等の顧客では、より良いデザイン、より快適な空間の提案を行うことが、自社の事業 の価値を上げるとの認識が拡大しております。

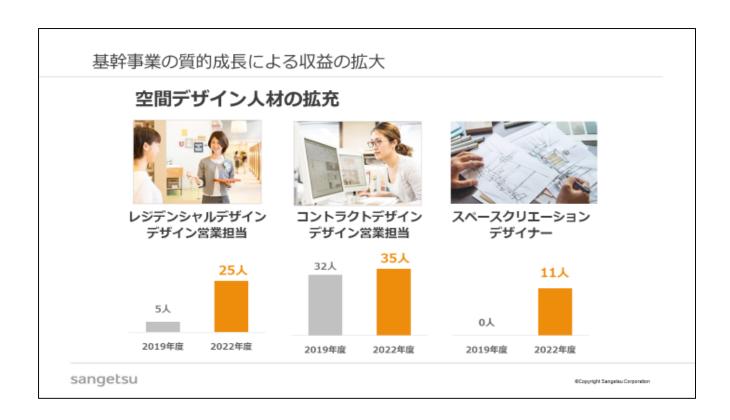
これらの顧客に対しての空間デザイン提案は、顧客との関係強化に大きな役割を果たしております。

市場別空間デザイン機能の強化

組織	ターゲット市場	活動内容
レジデンシャル デザイン室 (全国6支社)	住宅市場	ショールームを活用し ビルダー・ハウスメーカーへの 空間デザイン提案
コントラクト デザイン室 (全国6支社)	非住宅市場	ゼネコン・設計・事業主への 空間デザイン提案
スペース クリエーション事業部	非住宅市場	コンセプト立案から空間設計、施工管理まで、空間デザインを通じた ソリューション提案

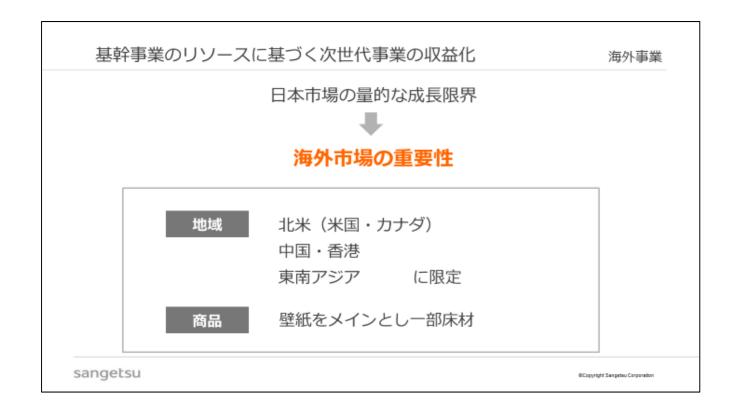
sangetsu @Copyright Sangebur Corporation

サンゲツには、長年、内装材料に携わってきたノウハウの蓄積があり、それに加え、社外からの空間デザインカを持った経験者の採用、さらに、顧客・市場に対応した社内組織体制への変更を行い、より質の高い空間デザインカの構築を進めてまいりました。



現在の空間デザイン関連の人員は、住宅・非住宅を含めて、合計で 70 名強となっており、これを今後、質的にも人数的にも、拡充する計画としております。

以上が、基幹事業の収益拡大に関してのご説明ですが、続いて、次世代事業の収益化、中でも大きな課題であります海外事業に関してご説明を申しあげます。



日本市場に関しては、量的な成長限界があり、海外事業を確固たるものとして収益化する事が、中長期的に重要な戦略と考えております。

海外事業を行う対象の市場としては、日本を中心とした環太平洋、すなわち北米・中国・香港・ 東南アジアに限定して注力いたします。

商品としては、サンゲツの主力商品である、壁装材料を中心とし、これに加え、一部の床材としております。

できる限り、焦点を絞り、事業を進めてまいる所存であります。

基幹事業のリソースに基づく次世代事業の収益化

海外事業

北米市場

Koroseal · Metro

生産効率の向上・コスト削減 商品開発力の強化 高付加価値取引・高付加価値商品の拡大



現地経営力の強化

sangetsu @Copyright Sangetsu Corporatio

個別事業の課題、方針に関しては、北米事業と中国・香港・東南アジア事業とは異なっておりまして、北米に関しては、生産効率の向上・コストの削減、商品開発力の強化、高付加価値取引・商品の拡大、を進めてまいります。

また、現地の経営力の強化も喫緊の課題として取り組んでおります。

基幹事業のリソースに基づく次世代事業の収益化

海外事業

中国・香港 東南アジア市場

Goodrich · Sangetsu Goodrich

住宅市場への注力 サンゲツ・クレアネイトとの協業による商品強化 施工・配送等のサービス機能の強化

sangetsu @Copyright Sangetau Corporation

一方、中国・香港・東南アジア事業では、住宅市場への注力、サンゲツ、およびグループ企業であるクレアネイトとの協業による商品強化、施工・配送等のサービス機能の強化、をさらに実行してまいります。

また、これに加えて、サンゲツ本社の海外事業支援能力の強化が重要であり、新たな体制構築を進めております。

社会的価値の実現

地球環境への負荷低減

■ 見本帳リサイクルセンター開設

2021年3月開設

- 1. マテリアルリサイクルによる環境負荷低減
- 2. 障がい者の活躍支援による ダイバーシティの推進

リサイクル目標: 2021年度: 5万冊/年(達成)

2022年度:13万冊/年

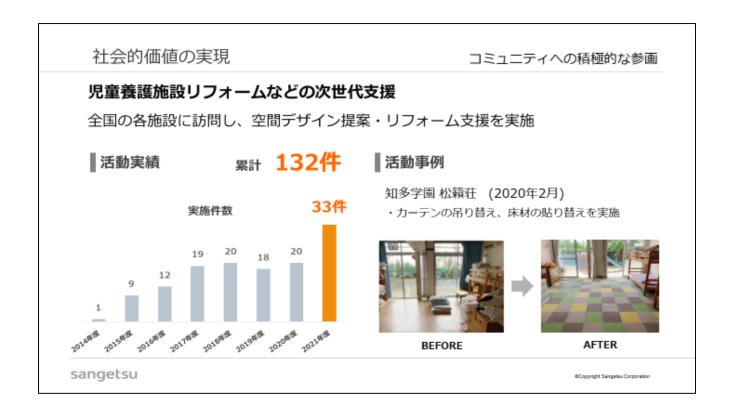




sangetsu «Copyright Sangetau Corporation

第4の、中期経営計画の大きな柱としての社会的価値の実現でありますけれども、この内、 地球環境への負荷低減の取り組みとして、昨年3月、見本帳リサイクルセンターを開設いたし ました。

障がい者の活躍の場として、昨年は目標としておりました 5 万冊の見本帳リサイクルを達成いたしましたが、今年度は、一部作業の機械化を導入いたしまして、13 万冊のリサイクルを予定しております。



社会参画活動としては、2014 年度より児童養護施設のリフォームを、全社共通の活動として 位置付けており、昨年はコロナ感染症による行動制限がありながらも、33 件の施設で実施す ることができました。

今年度はさらにこの活動を全国で活発化する予定としております。

ガバナンス

▮ コーポレートガバナンスの強化

- 1. 取締役会の独立性と多様性を確保する
- 指名報酬委員会の指名に関する実効性強化、 報酬内容の透明性継続
- 3. コンプライアンスの徹底

sangetsu

@Copyright Sangebus Corporation

続きまして、ガバナンス体制についてご説明を申しあげます。 基本方針といたしましては、

- 1.取締役会の独立性と多様性を確保すること
- 2.指名報酬委員会の指名に関する実効性の強化、また、報酬内容の透明性を継続すること 3.コンプライアンスの徹底

の以上3点としております。

ガバナンス 取締役候補者

第2号議案

取締役(監査等委員であるものを除く) 2名選任の件

候補者属性	候補者名	現在の当社における地位・担当
再任	安田 正介	代表取締役 社長執行役員
再任	助川 達夫	取締役 執行役員 管理担当(社長室・総務・人事・ 経営監査・情報システム)兼 財務経理部長

sangetsu @Copyright Sangetsu Corporation

これらの方針に基づき、指名報酬委員会で昨年来、慎重な検討を進め、取締役会にて審議の結果、本総会の第2号議案として、私、安田正介と助川達夫の2名を取締役候補者として、 上程させていただいております。

二名の略歴・選任理由につきましては、招集ご通知 9 ページと 10 ページに記載しておりますので、ご参照いただきたいと思います。

B= 60 / D. T	z → u → t +t.		,													
以神役ノ	スキルマトリ	ツクノ	<u> </u>													
						év Mé	の基本と	HA T OTEA			する経験		A Leten	E - 5 E +	経験・知見	
氏名	****														ESG.	
	現在の当社における 地位および担当	属性	在任年数	監査等 委員	指名 報酬委員	企業 経営	財務会計	人事· 法務	営業・マー ケティング	素材事業	製造· 品質	内装材 事業	建設事業	グローバル ・海外事業	サステナビリティ	
安田 正介	代表取締役 社長執行役員 指名報酬委員	執行	8年		•	•			•	•		•		•	•	独立社外 社内
助川 達夫	取締役 執行役員 管理担当 兼 財務経理部長	執行	1年				•							•	•	取締役 取締役
羽鳥 正稔	社外取締役 監査等委員(委員長) 指名報酬委員	社外	7年	(委員長)	•	0		•	•		•	•				4:3
浜田 道代	社外取締役 監査等委員 指名報酬委員(委員長)	社外 独立	7年	•	(委員長)			•						•	•	
宇田川 憲一	社外取締役 監査等委員 指名報酬委員	社外 独立	3年	•	•	•				•	•			•		監査等委員 を兼ねる 取締役
寺田 修	社外取締役 監査等委員 指名報酬委員	独立	1年	•	•	•			•				•	•		月X 神(安
佐々木 修二	取締役常勤監査等委員	非執行	3年	•					•			•				5:2

この2名の取締役をご承認いただいた場合のガバナンス体制は、このスライドの通りとなります。

合計 7 名の取締役会メンバーの内、独立社外取締役が 4 名、社内取締役が 3 名となり、監査等委員を兼ねる取締役が 5 名、業務執行の取締役が 2 名となります。

一方、執行サイドの経営意思決定過程への参画の機会を確保するため、経営執行の部門責任者であります3名の本部長は、取締役会に毎回同席の上、議論へ参加しております。

中期経営計画【 D.C. 2022 】 資本政策

資本政策

- 1. 自己資本を 900~950億円 の範囲で維持する。
- 2.3年間の総額で 総還元性向を略100% とする。
- 3. 自己株式取得および配当に関しては、安定増配を念頭に、 新型コロナウイルス感染症の業績に与える影響を見極め 都度決定する。

株主還元方針

2021年12月公表

株主還元において配当の比重を高め、且つ安定的増配を行いつつ、 機動的に自社株取得を行う方向に修正

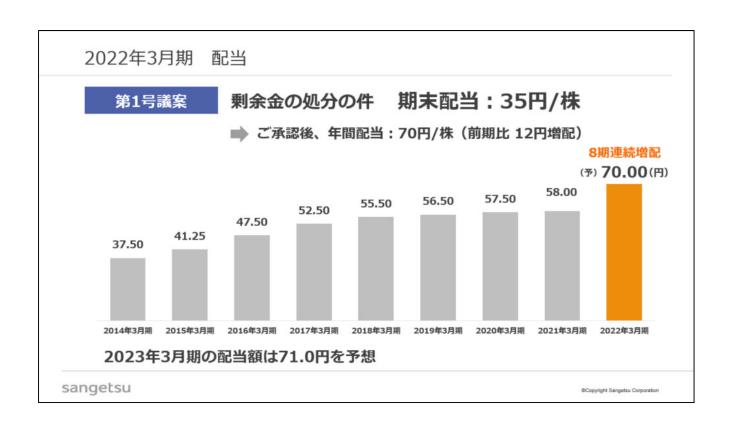
sangetsu

@Copyright Sangetsu Corporation

最後に、資本政策と配当に関してご説明を申しあげます。 中期経営計画中の資本政策は、

- 1. 自己資本を 900~950 億円 の範囲で維持する。
- 2.3年間の総額で 総環元性向をほぼ 100% とする。

これに加え、従来より、個人を中心とした株主の皆さまより、配当の比率を高めることへのご要請が強かったことから、昨年 12 月に、株主還元において配当の比重を高め、かつ、安定的増配を行いつつ、機動的に自社株取得を行う、という新たな方針を発表させていただきました。



これらに基づきまして、第1号議案として、2021年度の期末配当を1株当たり35円とさせていただくことをご提案申しあげております。

これにより、2021 年度の年間配当は一株当たり 70 円となり、2013 年度以来連続 8 期の増配となります。

また、今年度の配当額は一株当たり71円として、予想発表をさせていただいております。

株主還元実績 中期経営計画【 D.C. 2022 】期間中

株主還元実績						
	株主還元総額	親会社株主に帰属する 当期純利益	総還元性向			
2021年3月期	39.3億円	47.8億円	82.4%			
2022年3月期	68.2億円	2.7億円	2,466.1%			
合計	107.6億円	50.5億円	212.8%			

株主還元の内訳					
	自己株取行	导	配当金		
2021年3月期	27.9万株	4.3億円	35.0億円		
2022年3月期	169.5万株	26.8億円	41.3億円		
合計		31.2億円	76.3億円		

株主還元総額	総還元性向
107.6億円	212.8 %

sangetsu @Coppright Sangetsu Corporation 74

これにより、中期経営計画の2ヶ年の総還元性向は自己株取得と、配当金を合せて、212.8%となっております。

以上、私より決算概況と中期経営計画の進捗、並びに第1号議案、第2号議案をご説明申しあげました。



※採決の結果は、当社 web サイトに記載の「第 68 回株主総会決議のご通知」よりご覧ください。

第70回株主総会決議のご通知

 $\underline{\text{https://www.sangetsu.co.jp/information/pdf/20220622115320.pdf}}$



以上をもちまして、本日の会議の議事は全て終了致しましたので、本総会を閉会いたします。 本日は、まことにありがとうございました。